

—目次—

- 2024 年度研究大会(2024 年 11 月 9 日, 10 日)自由論題報告募集
- 木村崇先生を悼む
- 『ロシア・東欧研究』、『Japanese Slavic and East European Studies』投稿募集中
- 事務局からのお知らせ
- 最近の理事会の議事録より

## 2024 年度研究大会 11 月 9 日(土)、10 日(日) 早稲田大学にて開催 自由論題報告募集

### 1. 共通論題報告テーマ：「戦時下で変容するロシア像・ウクライナ像」

2024 年度研究大会の共通論題では、長引く戦争のなかで「ウクライナ」と「ロシア」をめぐる評価や理解、イメージがいかに変化してきたのかに焦点を当てます。ウクライナとロシアそれぞれの自己認識や相互認識だけでなく、日本も含め第三者の認識や理解についても、市民や研究者、芸術家、メディアなどの観点から検討します。既に報告者、討論者、司会が次のように決まっております（報告タイトルはすべて仮題）。ご期待下さい。（企画委員長・立石洋子）

#### 第1セッション

司会：立石洋子（同志社大学）

原田義也（明治大学）「時代が変える言葉、言葉が変える時代：戦時下のウクライナにおける文学実践の諸相」

平野高志（ウクルインフォর্ম通信）「ウクライナのクリミア・ナラティブ」

松下隆志（岩手大学）「帝国」としてのロシア像：ウクライナ侵攻後のロシア右派知識人の言説を中心に」

討論者：高橋沙奈美（九州大学）、松崎英也（津田塾大学）

## 第2セッション

司会：五十嵐徳子（天理大学）

上田洋子（ゲンロン）「戦時のメディアと日常」

蓮見雄（立教大学）「世界経済の二重の転換の「鏡」としてのロシア ——ロシア経済は多極化と脱炭素化に適応できるのか？」

山添博史（防衛研究所）「移り変わる戦争観とロシア像・ウクライナ像」

討論者：岩下明裕（北海道大学）、浜由樹子（静岡県立大学）

\*2024年度の企画委員会は、以下の会員で構成されています。宇山智彦、小森宏美、高橋沙奈美、立石洋子(委員長)、乗松亨平

### 2. 自由論題報告募集(6月30日締め切り)、若手会員には旅費等を支給

自由論題報告を希望される会員は、1氏名、2住所、3電話番号、4所属、5報告タイトル、6報告要旨(約400字)を6月30日(日)(必着)までに企画委員会・立石のメールアドレス(ytateish@mail.doshisha.ac.jp)へメールでお知らせ下さい。なお、応募者多数の場合は、企画委員会にて人数調整を行う場合があります。また、大会の時期・形態に変更があり得ることにご留意ください。

自由論題報告を行う若手会員に旅費等の助成を行っています。5万円を上限として、交通費、宿泊費、懇親会費などが助成の対象となり、飛行機を利用したパック旅行も適用されます。院生はもとより、専任・常勤職を持たない40歳未満の若手会員も対象となります。また、2022年度以前に助成を受けた方も再応募は可能ですが、2023～2025年度の利用は一回のみとなります。応募する方は、報告の採択後に、学会サイトの「研究大会」ページに記載の要領に従って、学会事務局会計担当宛て申し込んでください。多くの若手会員の皆様のご利用をお待ちしております。

# 木村崇先生を悼む

佐藤昭裕

2024年4月27日、木村崇先生（以下では「木村さん」と呼びたい）が亡くなった。あり得ない、想像の範囲を超える、突然の知らせだった。自分の知る木村さんと、病気とか入院、ましてや死などという出来事とは、どうしても結びつかなかったのである。

木村さんと私は京都大学で同僚として勤務した。部局も異なり、学内の会議などで一緒になることもあまりなかったが、JSSEESの運営のためには長い時間を共に過ごした。

木村さんは中京大学から京大に移ったあと、長い間 JSSEES の事務局を引き受け、ついで理事長として会の運営に当たられた。私は、木村さんから事務局を引きついで。理事長としての木村さんは、組織面でも学術面でも、十分にそのリーダーシップを発揮された。関心の領域が広く、瞬発力に富む木村さんがとくに腕をふるったのが、JSSEES の存在理由である欧文会誌の刊行を別にすれば、毎年行われるシンポジウムの企画だった。

2004年、スラヴ世界とイスラム圏という、二つの文化圏の境界領域としてのカフカースをテーマに、東京工業大学で行われたシンポジウムもその一つである。木村さんは東京工大の早坂真理さん——私より2年早くワルシャワに留学していた。私がワルシャワの最初の冬を乗り切れたのは彼のお陰である。2020年の暮れに亡くなられた——と協力して計画を立て、多様な専門の人たちを巻き込んで、大規模なシンポジウムを実現に導いた。2年後には立派な論集も刊行された。

ちなみにこの年は、1944年に生まれた木村さんの還暦の年でもあった。幾人かの方でお祝いのプレゼントを用意してくださって、懇親会の二次会は突如木村さんの還暦祝いの席に変わった。白地に赤の格子が入ったスポーツシャツが木村さんに渡されたのを覚えている。

木村さんと私の関係は、この JSSEES の活動を第一の軸とするものであったが、同時にロシア語の師と学生、それも最初期の学生の一人という第二の軸があった。1969年、紛争の年に大学に入った私は、授業もないまま夏休みを迎え、東京の実家に帰った。そして第2外国語として何となく登録だけはしていたロシア語でもやってみようと、代々木時代の日ソ学院（現在の東京ロシア語学院）の夏期講座に出、そのまま秋になってもまだ日ソ学院に通っていた。その秋のクラス——週3回の夜間のクラスだった——で教えておられたのが、民族友好大学を卒業して帰国し、東京外大の大学院におられた当時25歳の木村さんだった。声は大きく、話し方は歯切れがよかった。授業は分かりやすく脱落していく人はいなかった。

次に木村さんに会ったのは、10年後、木村さんがまだ中京大学におられた頃であろうか。ロシア文学会の大会の懇親会場で、ふと誰か、すぐには分からないけれど、知った人のようにも思える誰かと、目が合った。木村さんだった。

この追悼の文を書きながら、東京ロシア語学院のサイトを覗いてみた。あるページに、代々木の木造2階建て旧校舎の写真が掲載され「この小さく、古い建物からすべてが始まりました」とあった。木村さんと私の交わりもここから始まった、そして研究者としての私の人生も木村さんのクラスから始まった、と言い換えてみたら、木村さん、いや木村崇先生は何と言われるだろうか。

# 『ロシア・東欧研究』

## 『Japanese Slavic and East European Studies』

### 投稿募集中

### 締め切りは9月15日

JSSEES との統合により従来からの『ロシア・東欧研究』に加え『Japanese Slavic and East European Studies』への論文、研究ノート、書評の原稿を募集しています。『Japanese Slavic and East European Studies』は欧文雑誌となっております。応募締め切りは9月15日、原稿提出期限は11月末日です。研究大会における自由論題報告者のみならず、多くの会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。また、投稿時点において40歳未満の方は、自動的に若手研究者奨励賞（賞状、副賞5万円）の選考対象となります。執筆要領については、学会HPまたは学会誌巻末の「投稿規程・執筆要領」をご覧ください。

『ロシア・東欧研究』、『Japanese Slavic and East European Studies』は刊行後すぐに電子ジャーナル化されることになりました。1972年の創刊号から、日本最大級の総合電子ジャーナル・プラットフォームJ-STAGEにて電子アーカイブ化が完了しております。

学会誌に掲載予定の書評は、学会ウェブサイトにて先行掲示を行うこととなりました。また、書評用の書籍は、事務局ではなく、編集委員会宛に直接ご送付いただきますようお願いいたします。ただし、書評として取り上げるかどうかは、編集委員会の判断によります。

#### 問い合わせ・申込み先：

\* 『ロシア・東欧研究』

[jareesboardjp@gmail.com](mailto:jareesboardjp@gmail.com)

\* 『Japanese Slavic and East European Studies (JSEES)』

[kumo@ier.hit-u.ac.jp](mailto:kumo@ier.hit-u.ac.jp)

## 事務局からのお知らせ

1. 本年は3年に1度の役員選挙の年にあたっております。6月初旬に投票用紙が郵送されますので、会員の皆様には投票へのご協力をお願い申し上げます。なお、投票権者は、2024年3月末までに、2023年度までの会費を完納している会員になります。

#### 2. 会員情報登録のお願い

登録情報の変更は、学会HPの「会員ログイン（会員登録情報変更／年会費閲覧）」で行うことができます。

<https://asas-sys.jp/member/login/130c62518cb71d9c7c31c8cbb068dd530720864e>

登録情報に変更があった場合には、速やかにご対応ください。

なお、名簿での情報公開を希望しない項目につきましては、登録情報の変更の中でお選びいただくことが可能です。

す。また、会員種別の変更は学会 HP 上で行っていただくことができません。お手数ですが、直接、学会事務局にお知らせください。

会員 ID、PW が不明の場合には、学会支援機構へお問い合わせください (jarees@asas-mail.jp)。

## 最近の理事会の議事録より

(学会 HP 「会議」掲載済み)

2024 年 3 月 5 日 16 時～18 時 (オンライン)

出席 (敬称略) : 安達祐子、五十嵐徳子、宇山智彦、大串敦、神原ゆうこ、鴻野わか菜、小森宏美、下斗米伸夫、田畑伸一郎、中村唯史、服部倫卓、浜由樹子 (12 名)、志田仁完 (会計担当)、立石洋子 (Web/NL 担当)、雲和広 (欧文誌編集委員長)

欠席 : 油本真理、乗松亨平、廣瀬陽子、藤原克美、松里公孝、道上真有、湯浅剛、ヨコタ村上孝之 (委任状あり 5 名、同なし 3 名)

司会 : 宇山智彦副代表理事

○五十嵐徳子代表理事の挨拶があった。

1. 浜由樹子と文誌編集委員長より編集状況につき報告があった。また、J-Stage 等で公開される PDF 版に関して、執筆者が希望し、編集委員会で承認された場合には、カラーとすることが提案された。本件については、現在編集中の第 52 号からカラー版作成を認めることとし、追って執筆要項等を修正することとした。続いて、雲和広欧文集委員長より編集状況につき報告があった。

2. 入会者 4 名、退会者 5 名、休会者 3 名について事務局より報告があり、承認された。

3. 3 年間会費未納者 12 名について報告があり、会則に従って手続きをとることが承認された。

4. 2023 年度予算／中間決算と 2024 年度予算について資料に基づき志田仁完会計担当から報告があり、承認された。

5. 中村唯史理事より、2023 年度研究大会の収支報告が行われた。大会開催費に含まれるアルバイト代や非会員の旅費等の基準について、事務局が案を作成することとなった。

6. 2024 年度研究大会について

(1) 共通論題のテーマとして、戦争によって変化したロシアやウクライナの語られ方とすることが承認された。

(2) 企画委員会に立石洋子氏 (委員長)、宇山智彦理事、小森宏美理事が入ることが理事会当日承認され、後日のメール審議において、乗松亨平理事と高橋沙奈美氏が企画委員になることが承認された。なおこのメール審議にて、立石洋子委員長に理事として理事会に加わっていただくことも併せて承認された。

(3) 組織委員会の構成は、小森宏美（早稲田大学）、新井陽大（同）、鴻野わか菜（同）、斎藤慶子（大阪公立大学）、三浦清美（早稲田大学）とすることが承認された。

7. 研究奨励賞の選考委員会の委員として、藤原克美理事（委員長）と中村唯史理事が選ばれた。後日、残りの委員として、井上まどか会員、石井信一会員、加藤美保子会員が理事会のメール審議にて承認された。

#### 8. その他

(1) 五十嵐代表理事より、2025年にICCEESのロンドン大会が開催されることが報告された。ロンドンの次の開催地については未定である。

(2) 小森理事より、JCASAの事務局が、2023年12月をもって、ロシア・東欧学会より北東アジア学会に引き継がれたことが報告された。

以上

#### 《編集後記》

2024年度研究大会の自由論題報告の募集が始まりました。皆さまのご参加をお待ちしております。

また『ロシア・東欧研究』、『Japanese Slavic and East European Studies』への投稿も募集中です。よろしくお願いたします。

#### ロシア・東欧学会ニュースレター 第47号（2024年5月発行）

《発行》ロシア・東欧学会事務局 立石洋子・小森宏美

郵便物送付先：〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1  
早稲田大学教育・総合科学学術院 小森宏美研究室気付  
E-mail : jarees\_office@yahoo.co.jp HP : <http://www.jarees.jp/>

ゆうちょ銀行（加入者名：ロシア・東欧学会）：  
郵便局での払込：00150-8-177731 他行からの送金：019 店 当座預金 0177731

事務局会計担当（志田仁完） email: [kaikei@jarees.sakura.ne.jp](mailto:kaikei@jarees.sakura.ne.jp)  
学会支援機構（ロシア・東欧学会事務委託先） email: [jarees@asas-mail.jp](mailto:jarees@asas-mail.jp)  
よくあるご質問 <http://www.jarees.jp/faq/>